

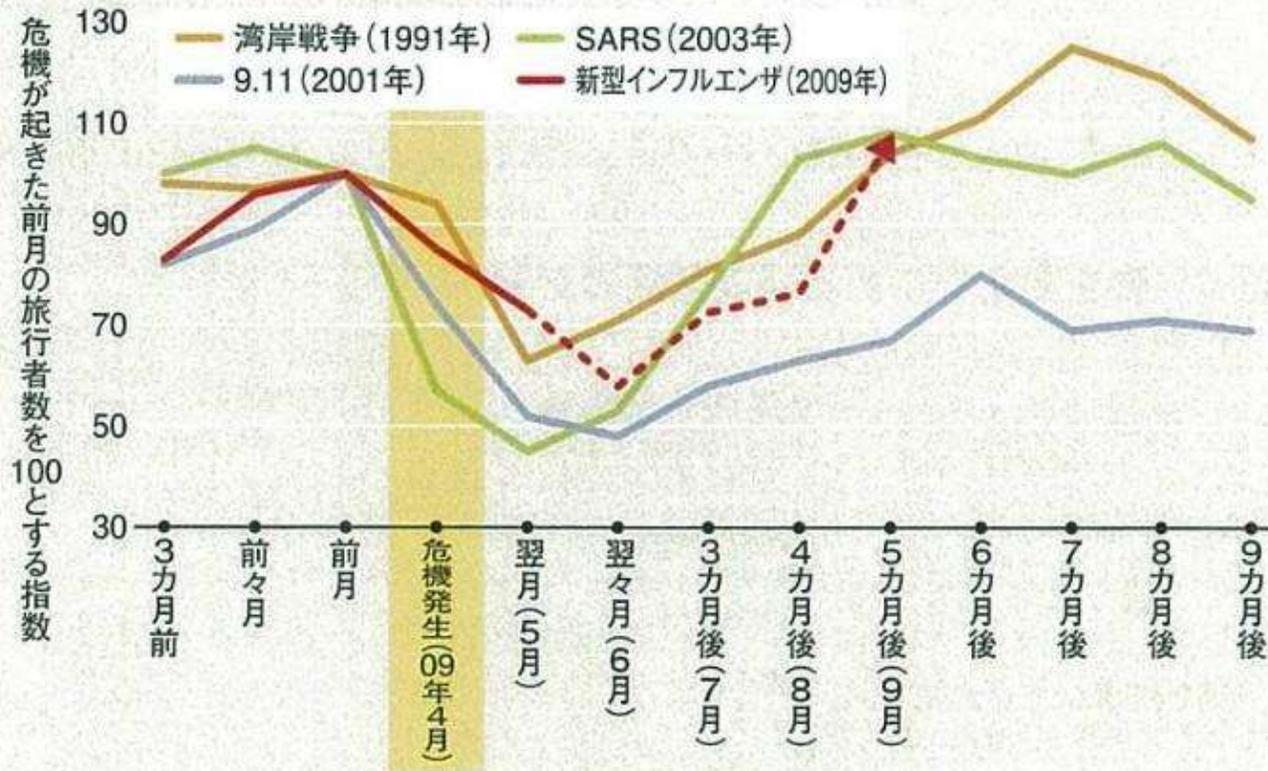
過去の感染症に学ぶ

資料作成

JATA 理事 事務局長 越智

事件発生から回復までのパターン 半年が目処 ~より早く、より小さく~

クライシスのパターン考



SARS の例

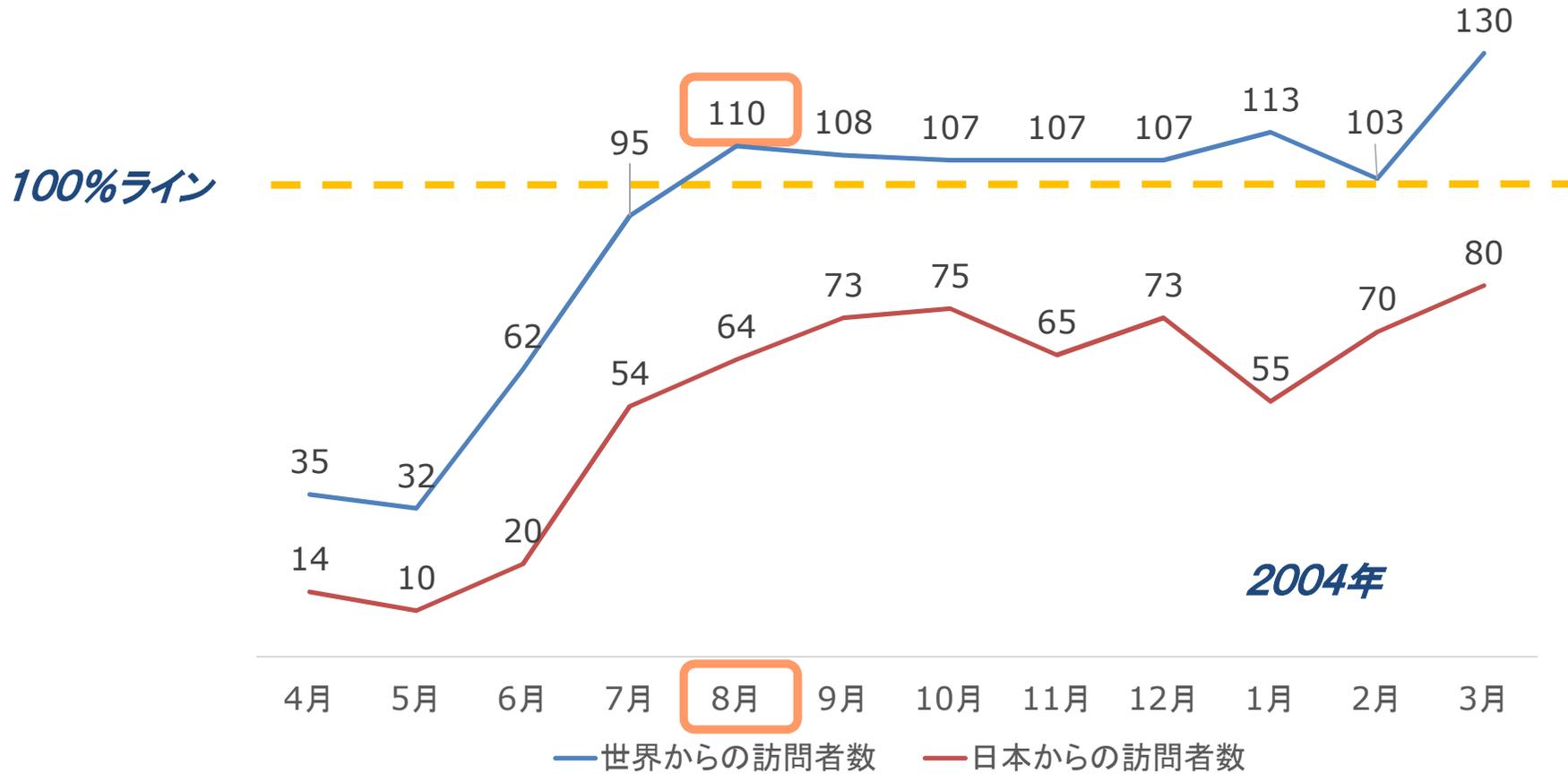
観光産業を襲った「想定外」ショック

2003年3月 感染症 SARS

感染者8069名 死亡者775名→感染の恐怖感



SARSリカバリー(香港)8月には回復 中国市場が主力、日本市場は遅い



香港 : SARSからの復活シナリオ

フェーズ1:発生期 4月2日 WHO渡航延期勧告(51日間)

徹底した衛生管理、空港での体温測定

フェーズ2:回復準備期 5月23日 WHO注意レベルへ(31日間)

WHOと共に安全をアピール

フェーズ3:回復期 6月23日 WHO規制解除

7月13日~9月15日 ウェルカムキャンペーン

再発防止段階(リスクマネージメント)⇒

回復キャンペーンへ切り替え(リカバリーマーケティング)

香港：復活へのリカバリーマーケティング

<予算>

世界市場向け 香港行政庁**150億円**

香港政府観光局**60億円** ⇒5ヶ月で回復

日本市場向け **2億8千万円** ⇒1年以上かかって回復

※アジア人宿泊拒否事件 日本人は神経過敏

<対策>

7月13日～9月15日 ウェルカムキャンペーン

総額2億4千万円の懸賞、アジアフォーラム開催

旅行業界、プレス招待、新聞TV広告、2000名招待

10月10日、11日 ユーミンシャングリラ公演

新型インフルエンザの例(2009年)

新型インフルエンザが4400万人感染13,463名死亡



初動の失敗で
過剰反応
想定外の事態

マスク神話

感染者への中傷

海外の流行 ～新型インフルエンザ拡大の経緯

4月24日 WHO 米国・メキシコにおける集団感染を発表

4月27日 WHO フェーズ4宣言(新型発生)
カナダ・スペインへ波及

4月29日 WHO フェーズ5宣言(警戒期)
以降、南半球を中心に拡大

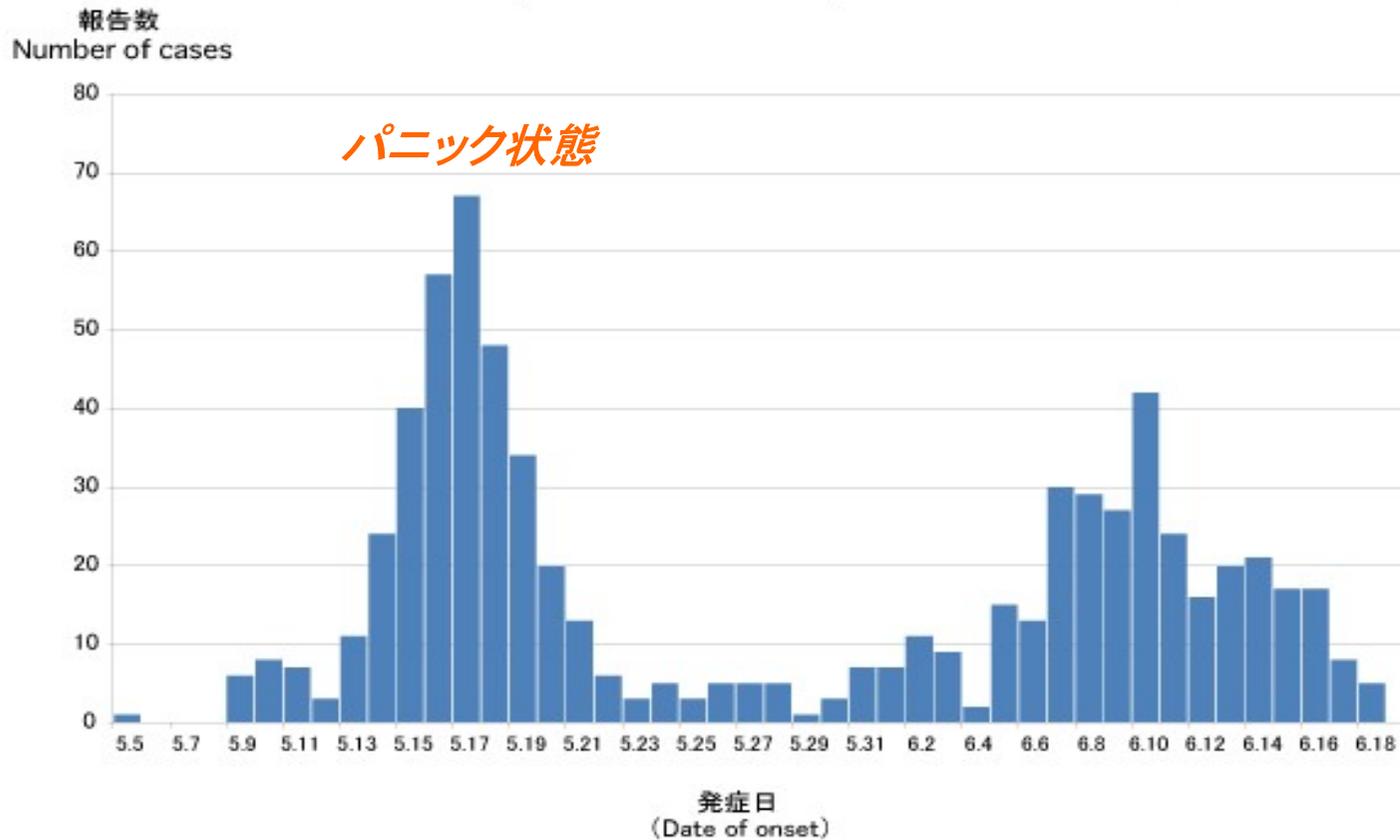
6月12日 WHO フェーズ6宣言(パンデミック期)
強毒性ではない為 国境閉鎖不要

※ 178カ国3地域 死亡者17853人(2010年4月付)
日本は5022名感染、198名死亡

国内発症でパニック発生

発症日別報告数 (6月19日現在)

Number of cases by date of onset (Last updated: 11 : 00, 19 June,) 2009



新型インフルエンザ 発生から措置緩和まで

4月28日 政府対策本部 水際対策開始 メキシコへの渡航延期勧告

5月 9日 カナダ研修からの帰国者の感染を確認(成田)

5月10日 徳島県が修学旅行の中止を決定⇒その後撤回

5月16日 神戸で学生の感染確認

5月18日 兵庫県・大阪府 休校

京都・関西への修学旅行が大量取消 35万名
夏休みの語学研修(オーストラリア)取消

5月22日 政府対策の弾力的運用を発表

文科省が修学旅行実施を通達

取消料に「地域活性化・経済危機対策臨時交付金」

メキシコへの渡航延期勧告を解除

5月28日 神戸 ひとまず安心宣言

6月26日 金子観光立国担当大臣 安心メッセージ

修学旅行：パニック取り消しから延期実施へ

パニックで35万名取消し→全部取消しなら 2500億円の損失
波及損失は1兆円??

JATA新型インフルエンザ対策委員会

文部科学省、観光庁陳情

旅館連盟など他団体にも働きかけ

自民党観光部会→教育委員会へ通達



教育効果＋経済効果で「延期しても実施」の通達

秋の流行では冷静な対応(国内修学旅行)

	5~6月	7~10月
予定通り実施	11521(78%)	7858(97%)
延期	3250(22%) ⇒	167(2%)
取り止め後検討	25(0.2%)	6(0.1%)
中止	5	53(0.7%)
春の延期の内訳	小学校	1472(18%)
	中学校	1571(28%)
	高校	49(15%)
	特別支援学校	157(33%)

※文科省調べの学校数

世界各国の対応 ~日本を「感染国」として指定

日本への渡航自粛→ロシア以外は解除

シンガポール	大阪、神戸への渡航自粛 6月13日解除
台湾	訪日教育旅行の自粛 6月5日解除

日本人の受け入れ制限

オーストラリア	日本からの学校交流制限(7日間) 6月17日解除
中国	体温37°C以上で病院検査

文部科学省のガイドラインで判断 (事務連絡第5報より)

海外教育旅行 : 外務省の渡航情報に100%準拠

5月22日 メキシコへの渡航制限解除

国内教育旅行 : 国家対策本部の指針の修正を受け

患者や濃厚接触者が活動した地域でも、
集会スポーツ大会等の一律の自粛は不要
臨時休校以外では、修学旅行の自粛は不要

< ☎ 相談窓口 9時～19時 03-6734-2957 >

+ 教育委員会独自の判断

+ 保護者の声 ← マスコミの論調

外務省の新型インフルエンザの安全判断

1. ウイルスの毒性具合
2. 医療体制の充実度
3. 二国間(日本と対象国)関係を考慮



メキシコのみ : 4月28日~5月21日 渡航延期

その他の国 : 十分注意
(手洗い、うがい、体調管理
=食事、睡眠・サプリメント)

医療施設が充実した国を選べば問題なし

アジア : 中国、韓国、シンガポール、
マレーシア、台湾

欧州 : イギリス、フランス

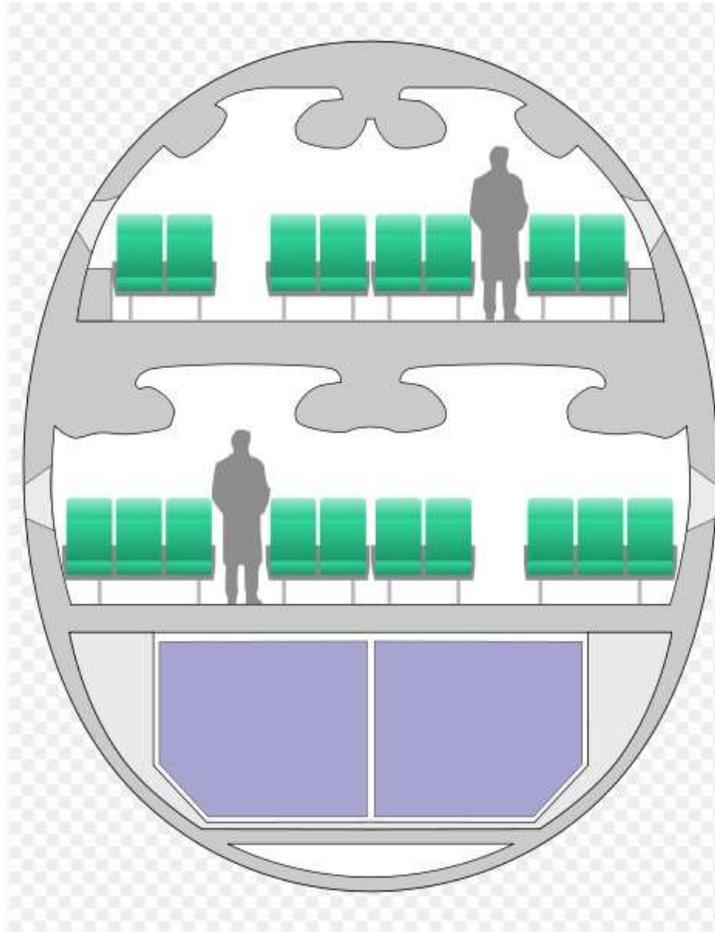
北米 : アメリカ、ハワイ、カナダ

大洋州 : オーストラリア、ニュージーランド
グアム、サイパン



通常^レの予防対策をとる
かかっても医療施設

航空機は換気とフィルターで安全



機内換気システムの概要

1. 3分毎の交換(50%は再換気)
2. 上方(天井)から下方(床)への
空気の流れ
3. 高性能HEPAフィルターの採用
ウイルス・細菌を殆ど除去する
0.3ミクロン、99.97%の捕捉率
(飛沫核は5ミクロン)